

広島高速５号線『二葉山トンネル』の建設をめぐり、工事を進めるために必要な費用が認識の違いで契約上含まれていなかったことがわかり、契約を結んだ額よりも増加することがわかりました。

広島高速５号線の『二葉山トンネル』の工事を巡ってはおととし５月、高速公社が共同企業体と総額およそ２００億円で工事契約を結びました。

しかし、建設会社が入札前に示した最終的な見積額のなかに、工事を進めていくために必要なコンクリート壁の費用などが含まれていないにもかかわらず、公社側は見積もりに含まれているものと認識していたため、工事費が増額することになりました。

【広島高速道路公社・石岡輝久理事長】

「内容がお互いに十分理解されていなかった、意識が統一されていなかった。市民県民の方に申し訳なく思っております」

公社は、どのくらいの工事費が増額されるのか、具体的な金額について今後精査していくとしています。

2018年10月26日





